

F 16 衣服選択に関する教育

—衣服の死蔵防止に使用実態調査の活用を—

桜美林短大 津田欣子

目的 市場に多種多様な衣服があふれている現状での衣服教育は、活用される衣服を購入時に選択できるためのものでありたい。環境問題の一環として死蔵・廃棄衣料のリサイクル促進対策が検討されているが、それ以前の問題として、先ず死蔵衣料を減らす対策が必要である。高品質であっても好みに合わなければ死蔵品になるこの時代には、衣服選択が重要である。

方法 各自の衣生活の実態を把握させるために衣服使用実態調査を課し、各レポートを関連づけて全体像をみる。

(1) 購入および取り扱い時の失敗例とその対策 (2) 所持衣服の使用実態レポート

結果 (1) 失敗例によれば不良品購入や取り扱いミスその他に選択ミス(品質的には問題ないが、目的に合わない買い物をした)が多い。

(2) 実態調査により、各自の衣服について着用季節と繊維、服種と繊維、服種とサイズ表示、洗濯法の表示と実態、使用頻度、再利用・廃棄状況(推定)をみてくると、各自の嗜好傾向の実態が分かり、使用頻度に関する要因、リフォームについての考え方や、今後の購入時のチェック・ポイント等が明確になる。各自の体験を衣服選びに生かすことで死蔵を防ぎたい。